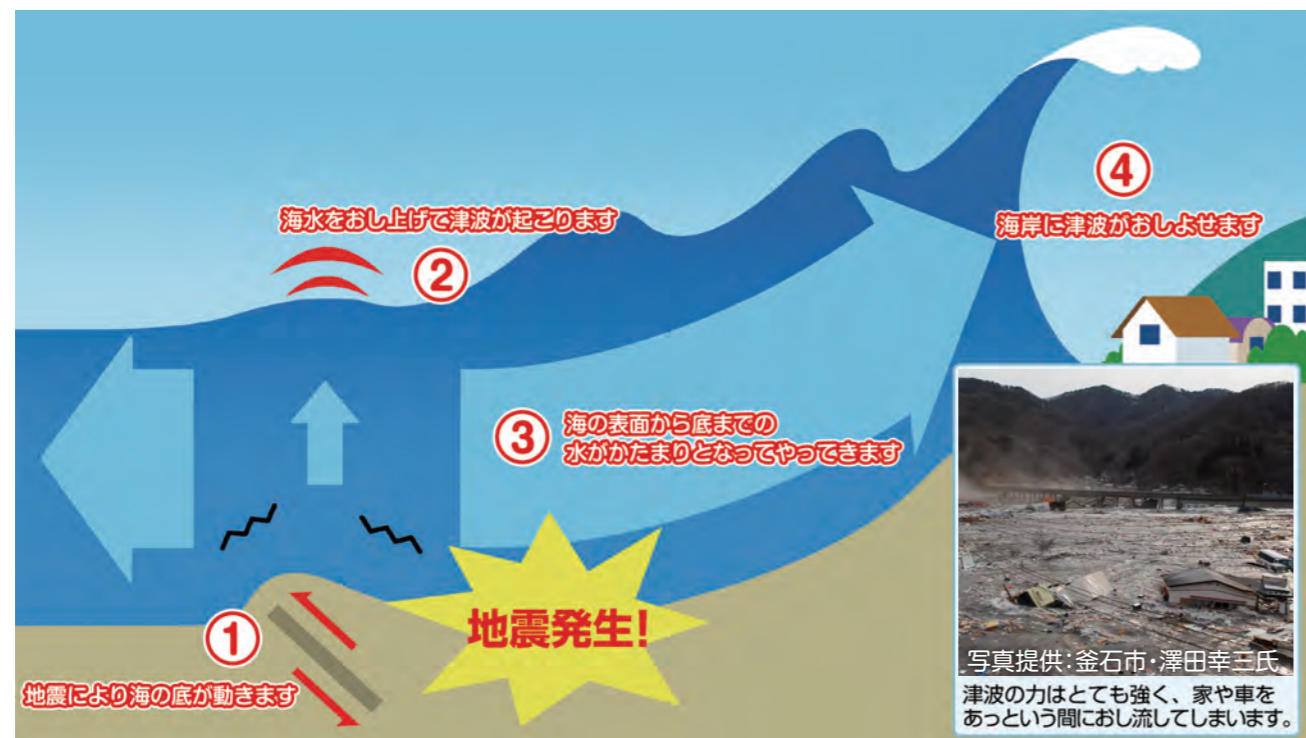


津波

津波の発生

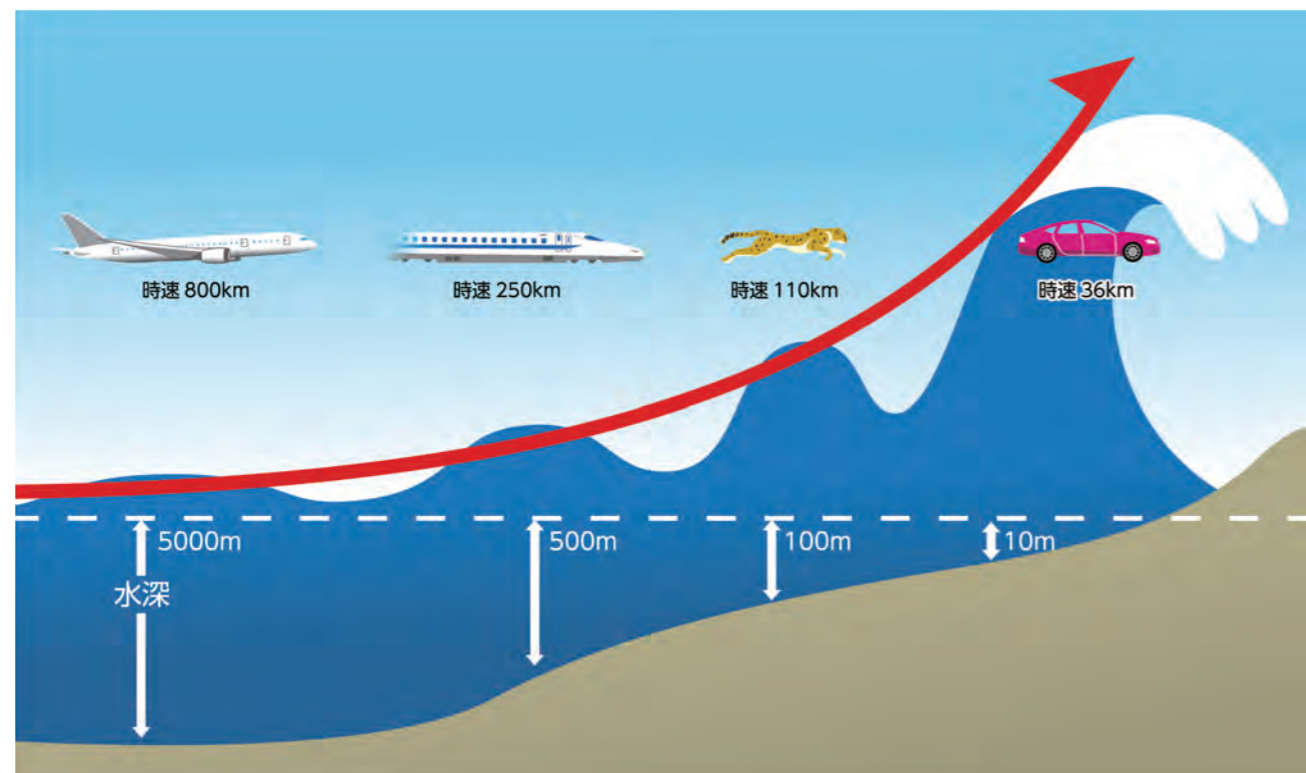
海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。



津波の伝わる速さと高さ

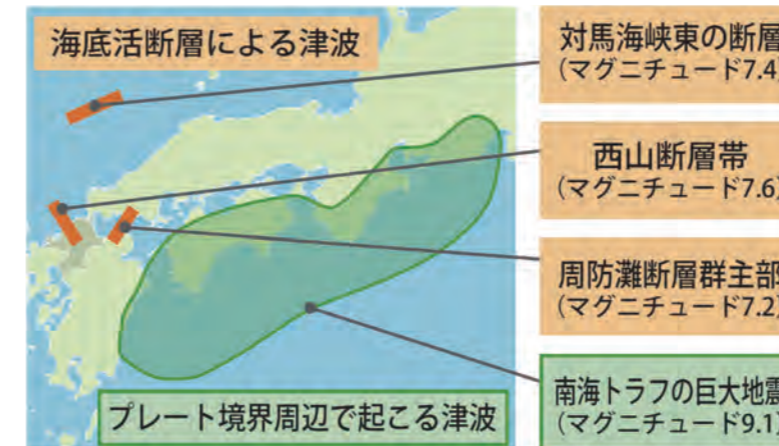
津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。津波が陸地に近づくにつれ、波高が高くなります。

水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報等が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。



(出典:気象庁ホームページ)

北九州市で想定されている津波



海底活断層による津波

北九州市に影響を与える海底活断層は、西山断層、対馬海峡東の断層、周防灘断層群主部があります。

福岡県が設定した「福岡県津波浸水想定(平成28年)」では、それぞれの断層を震源とする地震発生による、市内において想定される最大クラスの津波について公表されています。

プレート境界周辺で起こる津波

プレート境界周辺で起こる津波は、太平洋沖の南海トラフによる巨大地震が想定されています。福岡県が設定した「福岡県津波浸水想定(平成28年)」では、マグニチュード9.1の地震発生に伴い、最大3.5mの津波が到達すると想定されています。

想定される津波高

	プレート境界周辺で起こる津波	海底活断層による津波		
	南海トラフ巨大地震(M9.1)	対馬海峡東の断層(M7.4)	西山断層帯(M7.6)	周防灘断層群主部(M7.2)
門司区	3.5m	-	-	3.2m
小倉北区	2.8m	2.4m	2.7m	2.4m
小倉南区	3.2m	-	-	2.5m
若松区	-	4.6m	3.0m	-
八幡東区	1.8m	1.9m	1.9m	-
八幡西区	1.6m	1.6m	1.8m	-
戸畑区	2.0m	2.0m	2.4m	-

防災スピーカー

津波情報を迅速かつ効果的にお知らせするため、沿岸部に防災スピーカーを設置しています。

津波警報のほか大雨等の特別警報や、避難に関する情報を放送します。



津波フラッグ

海水浴場等で、大津波警報、津波警報、津波注意報が発表された際は、防災スピーカー、携帯電話など様々な手段で危険をお知らせするとともに、「津波フラッグ」による視覚的伝達も行っています。




「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見たら、速やかに避難しましょう。



津波フラッグ

避難のタイミング

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、 ただちに高台など安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。 
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、 より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。 
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	高さ0.2~0.3m程度の津波でも人は流れに巻き込まれる。 

津波避難の3原則

揺れを感じたり、津波情報を聞いても、なかなか避難に踏み切れないものです。以下の津波避難の3原則を実行して、津波から命を守りましょう。

想定にとらわれない

想定はあくまで自然現象を予測するシナリオのひとつであり、ほかにもあらゆる可能性があることを理解すること。

最善を尽くす

どのような状況になるか予測できない災害時にできることは、その状況のなかで最善の対応行動をとること。

率先避難者たれ

いざというときには、まず自分が率先して避難することで、その姿を見て、ほかの人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことができること。

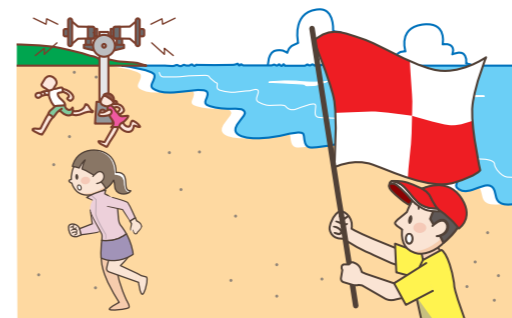


避難のポイント

避難するときに気をつけること、津波の特性

! 水辺からすぐに離れる

津波注意報であっても水辺は危険。ただちに海岸や川べりから離れる。



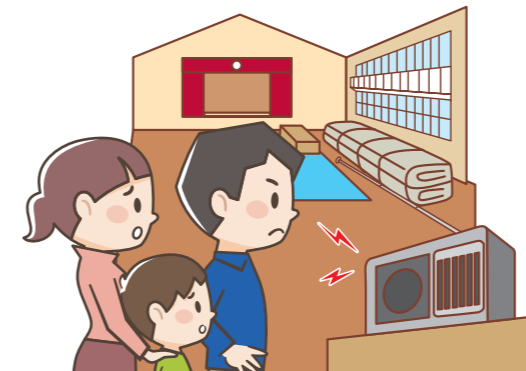
! 津波の速度は速い

津波の速度は非常に早く、目に見えてから逃げるのでは間に合わない。



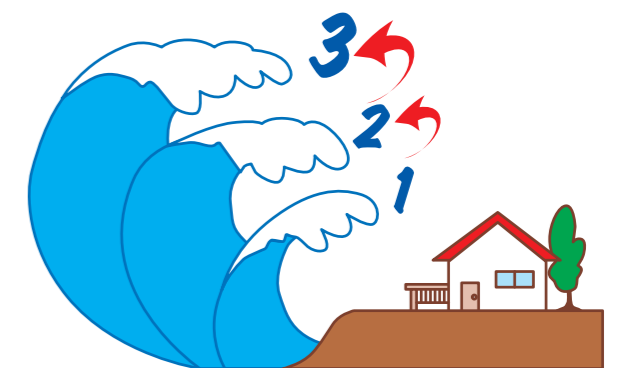
! 避難したら戻らない

到達予想時刻が過ぎたり、第一波が引いたとしても、津波警報・注意報が解除されて、安全が確認されるまでは避難を継続する。



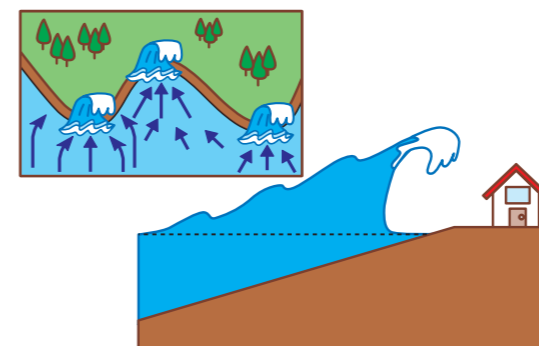
! 津波は何度も来る

津波は一度だけでなく複数回襲来し、後から来る津波の方が高くなることもある。



! 津波は場所により高くなる

津波は沿岸に近づき水深が浅くなるほど、急激に高くなる。また、V字型の湾や岬の先端など、地形の影響で局所的に高くなる。



! 津波は遠くからも来る

津波は遠方の地震等によって発生することもある。日本近海の地震によるものではない津波警報・注意報にも注意する。

